

東日本大震災とその支援

2011年（平成23年）3月11日（金）14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7の東北地方太平洋沖地震が発生し、その後に東日本沿岸部を襲った巨大津波は、各地に甚大な被害をもたらしました。本市における被害としては、津波による被害の発生はなかったものの、震度4の地震により、瓦や雨どいなどが崩落する被害が3件発生しました。

災害対策本部の開催状況

この地震に対応するため、3月11日15時15分に災害対策本部を設置し、被害状況の調査や津波に対する海面監視等を行いました。

その後、災害対策本部会議を6回開催し、情報収集に努めるとともに、避難所の開設と避難者や帰宅困難者に対し、毛布などの避難物資の手配や食料の配給等を指示しました。また、保育園や放課後児童クラブ等で保護者が引き取りに出来ない幼児・児童についても、各施設で預かるなどの必要な対応を指示しました。

市内避難所の開設状況

3月11日から12日にかけての避難者及び帰宅困難者は、逗子小学校・市民交流センター・文化プラザホールにおいて、ピーク時で1,000人を超え、逗子開成高校で80人、久木小学校で20人、小坪小学校で9人となりました。

保護者が引き取りに來れず、翌日まで施設でお預かりした保育園児等は、湘南保育園で1人、双葉保育園で3人、桜山保育園で1人、ずしっ子太陽学童クラブで2人となりました。小坪保育園では、津波による災害を回避するため、隣接する「湘南の凧もやい」に避難し、もやいの利用者とおわせて23人が互いの身の安全を確認しました。

市内避難所における避難者・帰宅困難者等の延べ人数は、約1,400人となり、その中でも逗子小学校と市民交流センターには、JR横須賀線、京浜急行電鉄及び京急バス等の公共交通機関が運休したことにより、多数の帰宅困難者が当該施設に避難されましたが、逗子小学校区の避難所運営委員会のメンバー12人、高校生のボランティア12人、そして避難者の有志ボランティア数十人が、逗子小学校の教員や市職員とともに、炊き出しや毛布運び等の避難所運営に当たったことから、大きな混乱を避けることができました。

これらの避難所は、大津波警報が解除された3月12日（土）13時50分に閉鎖、災害対策本部についても、同時刻をもって解散し、防災課職員等による警戒体制（第1次体制）へと移行しました。

（「逗子 市制60周年記念誌（2015年（平成27年）3月）」より抜粋）